

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790101117		
法人名	株式会社 SOYOKAZE		
事業所名	あったかいご方木田グループホームそよ風1丁目		
所在地	福島県福島市方木田字北白家15-1		
自己評価作成日	令和6年3月8日	評価結果市町村受理日	令和6年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1丁目 認知症の症状が重度の方が比較的多く、ご自身の想いを伝えることが困難なお客様が多く、また食事介助などの身体介護が必要なお客様が多い中、日々の様子や会話・表情などでお客様の想いや状態を知り、日頃からの職員間で話し合ったりミーティング等で意見交換をし合いながらお客様にとってより良いケアは何かを探りながらケアに努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和6年4月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人並びに事業所では人材育成に力を入れている。新採用者は「新人トレーニングファイル」に基づき、計画的な指導を受け、感想や疑問点をファイルにまとめて上司に随時提出している。上司が丁寧なコメント、助言を記述して返却する等、双方の学びとコミュニケーションを高めることで育成に加えて早期退職の防止にも注力している。毎月の内部研修や各委員会で実践的な事例検討、本部主催のオンライン研修、介護福祉士等の資格取得を支援する「そよ風アカデミー」等、学びの機会も充実している。
 2. 利用者・家族に最期まで寄り添う看取りケアを実践している。看取り指針に沿った説明、利用者・家族の同意のもと、重篤化した際は主治医を交えた余命支援の説明、看取りケアプランに基づき、尊厳のある生涯を閉じられるように心がけている。逝去後は支援内容を振り返り、ケアサービスの向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を考えながら事業所独自の理念を作り上げている	地域並びに利用者により添った理念を玄関先に掲示して来訪者と共有するとともに、事務所内・各ユニットにも掲げて職員間で理解を深めている。理念に基づき、利用者の命と向き合い、最期(逝去)までチーム一丸となったケアを実践している。理念を基軸とした業務振り返りを行い、日々のケア向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ地域自体が活動を自粛している事が多いですが、コロナが5類になってから久しぶりに行う町内会での活動行事であるお神輿を担いで町内を回ると言う行事がありました。その際に町内会の方に相談をして頂き施設の前で止まって頂きお客様方にお神輿担ぎの様子を見て頂ける時間を作って頂きお客様と地域の方々とのつながりを持つことが出来ました。	町内会長が種々気遣って下さり、外出や買い物が難しいときには「とくし丸」(移動販売車)の段取りや無断外出してしまった利用者を近所の方が保護してくれるなど、地域に密着した関係を築いている。事業所周辺の散策で挨拶を交わし、日常的な付き合いを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの修了書を持っている。運営会議やカフェを通して認知症への理解を話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	地域代表・ご家族様代表・地域包括職員・町内会長・民生委員の参加により、地域での出来事や施設内での出来事の情報の共有化をし、常に認知症の方が地域で暮らし続けていくにはをテーマにアットホームな雰囲気の中話し合いをしています。また、町内での行事の共有や情報交換をさせて頂いております	直近6回のうち、書面で1回、対面で5回開催している。書面では意見用紙を同封し、日頃のケアへの疑問や願いなども寄せられている。利用者の現状報告に加え、看取りケアからの学びの説明、委員からは災害時の留意点や近隣住民の福祉課題等について情報提供がなされる等、活発な会議運営が行われている。	介護事故やヒヤリハットは口頭で説明しているが、会議資料にも掲載することが望ましい。事故等の背景を委員に説明し、事業所(介護現場)への更なる理解促進が図られることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括職員や長寿福祉課職員、在宅医療・介護連携支援センターへ困難ケースや等相談をして頂いております	通常は電話・メールでのやり取りが多いが、処遇困難事例などは窓口に向い、現状の課題を伝え、関係機関と協働のもと解決を図っている。介護保険の事務手続きや事故報告書の提出等は、センター長と管理者が業務分担のもと担当課に出向き、説明・手続きを進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や勉強会・会議を行い常に身体拘束について話しあい防止に努めております。また、玄関の鍵は日中はかけず開放的にしております	虐待防止と合わせた指針を策定し、委員会は3か月ごとに開催している。事故防止を話し合う際も防止策が拘束につながっていないか等、実践場面で生きる拘束なきケアへの学びを深めている。転倒防止検討でも、転倒に至る経過や要因を分析・検討し、行動制限を要しないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に外部研修へ参加し常に虐待とは何かを考え、スタッフも日常のケアの中で虐待になるのか…等をその都度確認しケアに努めている。2ヶ月に一回虐待廃止会議を行い、虐待につながらないか確認しながら防止に努めています。また、会社全体が虐待廃止に力を入れております。	身体拘束等適正化委員会との合同会議と研修会を年2回開催している。日頃の対応や声かけが虐待につながっていないかをその都度職員間で確認、助言し合い、虐待のないケア実践につなげている。年2回+αで「虐待の芽チェック」を全職員で行い、現状把握と改善に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括職員に相談をしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解の上で入居頂いております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へ聞き取り運営に取り入れております	「お客様満足度アンケート」を毎年行い、結果を共有し、利用者・家族の満足度向上に努めている。面会時に接遇の態度や居室の衛生管理等について家族から意見を頂き、職員としての気づきや業務改善に反映できた事案もある。利用者の表情や言動の背景も推察し、個別理解を深めている。	重要事項説明書の苦情相談窓口、苦情解決責任者(管理者等)と苦情受付担当者(ユニットリーダー等)並びに第三者委員の選定、外部機関の窓口として福島県運営適正化委員会を加えて、相談・要望・苦情受付の門戸を広くすることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフと日常の何気ない会話の中での言葉をすくい上げ運営に反映するよう努力しています。また、個人面談の実施をしております。	センター長や管理者は日常場面にて職員へ細やかな声かけを行うとともに、ユニット間の連携等、業務上の課題把握にも努めている。会議では各職員が居室担当者としての立場から利用者の現状を説明し、全職員が意見・提案を述べるなど、活発な情報交換ができるよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度会議を開いており私たちの意見を聞いてくださっております		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度管理者会議を開いており私たちの意見を聞いてくださっており、そのような場を設けるよう推薦して下さっております	毎月の内部研修(テーマ別)と各委員会で実践的な事例検討、エリアごと開催の外部研修や本部主催のオンライン研修など、多岐にわたる学びの機会が確保されている。毎月の管理者会議で職員を育てる取り組みや課題などについて話し合う場面もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の大切さを理解して下さっておりそのような場を設けるよう提案を聞いて下さり実現しております		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査にて想いをくみ取っております。また、ご本人様から聞くことが困難な場合はご家族様からの意見を参考にしております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査にて想いをくみ取り、また、改めて入所した初日にまた想いを聞いております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の実態調査にて想いをくみ取り、また、改めて入所した初日にまた想いを聞きより良い生活にするには…と…一番に考え努めております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここでの生活の主はご利用者様であることをスタッフも再認識し自立支援と自己決定が出来る様な支援の取り組みをしております		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へも積極的に関わって頂く様日ごろの様子や今飲んでる薬等を広報でお送りし共に支えていけるよう関係を築いております。また、通院の協力を頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所付き合いが継続出来るよう面会時にはこちらからも「いつでも良いのでまたお越しください」とお伝えしております。また、ホーム内での関係も途切れないよう関わりを持てる支援に努めております	対面での面会が再開され、家族のみならず知人・友人も来訪している。自宅への外出や外泊、法事への出席等の他、馴染みある景勝地へのドライブなども実施している。看取り期には家族の居室宿泊も許可しており「最期」まで馴染みの方と関係が継続できる支援を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で何かされる際には見守るようにはしております。(あれとってや貸して等の簡単なこと)関係の良くないお客様同士の関わりあいには距離感にも気をつけております		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も年賀状のやり取りやご家族様が来訪して下さったりと関係性を大事にしております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の様子からも思いや希望をくみ取るように努めています。月1回担当者会議を開き把握に努めています。	家族がいつでも利用者(事業所)とやり取りができて気軽に来訪できる関係を構築している。これらにより利用者の表情も豊かになり、認知症に伴う周辺症状(BPSD)も軽減・消失するなど、入居後も家族の力(協力)を頂きながら利用者本意のケア実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から昔の話を聞いたり、ご家族様とお話する機会をつくりその方の人生全体を捉えて関わられるようにしております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様には担当スタッフがついており、担当スタッフ中心に日ごろの把握に努めその都度ミーティングにて見直しを行っております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調の変化や日々の関わりの中で利用者様やご家族様の意向を把握し職員間でケース検討会議を行い介護計画書を作成しております	入居前実態調査の情報から暫定ケアプランを策定して入居後の生活ニーズの変化を全職員で観察・収集し、本プラン策定へつなげている。プランに基づくサービス提供内容はケア項目ごとにタブレット内で記録・管理している。短期目標期間に合わせ、モニタリング表をまとめてサービス担当者会議で現状に即した支援の検討を深めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援、その結果を記録できております。気づき・工夫等も記録しリーダーが吸い上げ統一した対応が出来るようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変わった時は、最善のケアが出来るようにアイデアを出し合い、試行錯誤しながら支援に取り組んでおり、そのための勉強会も行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の協力を得ており、ご利用者が帰宅願望にて外出や徘徊しても温かく見守ってくださっております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご利用者様には在宅から続いている主治医がおり継続出来るようサポートしております。また、受診が困難になった場合にはご家族様と相談し病院を選んで頂いております	認知症の専門医など入居前のかかりつけ医へ受診しており、家族と病院で待ち合わせて体調の変化や日常の様子を職員から説明している。通院が困難になった時には、家族と相談し往診に切り替えている。本人と家族の希望を大切に、チーム支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護に向け担当者がノートに記入しその都度処置の指示やご指導をうけ日々のケアに活かせてます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員とこまめに連絡をとり早期退院に向け会議に参加したりと良好な関係を築いております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針やホーム内の看取りについて入居時に説明しホームの指針を理解した上で入居して頂いております。また、状態変化に伴い改めて再度看取りの指針を理解していただき同意書をもらい地域の医療関係者様・スタッフ・ご家族様が一体となり取り組んでおります	入居時に看取り指針に沿って説明し、利用者と家族の意向を書面で確認している。重度化した時には、主治医を交えて看取りの説明を行い、再度書面で同意を得ている。穏やかで尊厳のある状態で生涯を閉じることができるよう家族の協力のもと、医療と介護が連携しサポートしている。看取り後、職員のグリーフケアと振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様ごとに起こりうる急変やリスクについて検討し対応の仕方をスタッフで共有しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日々掃除の時火災防止の為危険箇所がないかチェックをしている。年に2回の総合避難訓練を行いまた、運営会議にて災害(水害も含む)時の対応の確認もしております	BCPIは法人本部で作成中である。ハザードマップで水害地域に指定されており、年2回の総合訓練では、水害や火災を想定した訓練を行っている。また、運営推進会議では、地域の河川が氾濫した時を想定した話し合いを行っている。レトルト食品や米、水などの非常食を備蓄している。	BCPIに沿って、夜間災害や風水害を想定した避難訓練を行い、体感することで新たに課題が出た時には事業所として見直しを図っていくことが望まれる。また、運営推進員や地域の協力を得て避難訓練を実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様に合わせた対応、個別ケアに努めています。申し送りや日々の会話の中でも大きな声でお客様の名前を言わないよう気をつけております	法令遵守や個人情報保護などの研修を行っている。利用者の言葉の背景を探り、意思や選択を尊重し、心地よく生活できるよう丁寧な声掛けを行っている。個人情報は各ユニットで施錠し管理している。パソコンは職員毎のパスコードが設定されており、個人情報の保護を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えやすい質問に心がけご本人様の意思を引き出せるようにしております。また、飲み物やおやつ、衣類の自己決定を促しております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に応じて無理のない生活が送れるよう配慮しております。時間に関係なく本人の希望で居室で休んだりして頂いております。朝も目が覚めた方から起きて頂いております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は選んで頂き、整容も促しています。爪切りや髭剃りのお手伝いをし身だしなみに気をつけております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	皆で楽しく御食事を共にしております。また楽しくお食事をとれるよう機の配置に工夫した対応をしております。	昼夕食はクックデリ(湯せん調理)を提供し、朝食は法人本部が作成した献立を基に手作りで提供している。行事の時には、秋刀魚や芋煮、お誕生日のケーキなどを利用者と一緒に作り、五感で季節を感じ、楽しい食事となるよう工夫している。今後は3食手作りの食事提供に向け検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様やそれぞれの好みや状態に応じて食事や飲み物を提供しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指示のもと、朝、夕に一人ひとりに応じた口腔ケアを行い出来ることは本人に行っております。また、食前の口腔体操も楽しく行っております。毎月8日を歯の日とし、口腔チェック歯ブラシ交換に努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。	排泄パターンや利用者のサインを観察し、羞恥心に配慮しながらトイレへ誘導している。尿意のあるカテーテル挿入の利用者について、介護側から医療へ働きかけたことでトイレでの排泄が叶うなど、個々の思いに寄り添いながら排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を取り入れたり飲食物やマッサージ等で工夫をしておりますが、薬での調節もしております		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望がある入居者様には希望に添えるようにしております。入浴拒否の方や重度認知症の方は気分、体調の良い日に入浴して頂いております	週2～3回、利用者の希望に応じて午前・午後と柔軟に対応している。入浴は思いを聴き取る時間と捉え、1対1でゆったりと入浴ができるよう取り組んでいる。お湯は都度入れ替えている。入浴拒否が見られた時には、無理強いせず個々の思いを尊重し、足湯や部分浴などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に応じて休んで頂いております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は説明書を読み理解し分からないことは看護師や薬剤師へ聞き把握に努めてます。また、変化については経過を記録し往診時に報告しております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ること、楽しめることを探り支援しております。月一回のご当地メニューの提供をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様とドライブを楽しまれたり、ご自宅まで外出を楽しまれたり、また春の時期は、近くに散歩に出かけたり、庭のお花を見たり。季節のお花(桜、バラ)など見に出かけております。	西高校の桜を見に散歩に出かけ、近所の方と挨拶を交わすなど戸外で気持ちよく過ごせる機会を作っている。利用者の希望を把握し、自宅やお墓参りなど行きたい場所へ外出できるよう、家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル等の心配のないご利用者様がご希望の場合、家族様と連携をとり所持しておりました。また、ご家族様が預けて行った際は必ずスタッフへいくらをどこに預けたかを声かけて頂くようにしております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられるように事務所は開放しております。また、子機が各ユニットにあり、ご本人様、ご家族様がいつでもお互いにお電話が出来るようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招く刺激はありません。花や壁画で季節感を出し匂いへの配慮や温度調節も行っております	共有空間には、利用者と職員と一緒に製作した作品が飾られ、季節の移ろいを感じられる。アシスタント職員が週2~3回勤務し、共有フロアの掃除や家事を行い、清潔な空間で過ごせるよう配慮している。利用者の相性にも気を配り、席の配置など工夫している。フロアにはソファが設置され、思い思いに過ごせる空間が用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、一人でも足を伸ばしてくつろいだり入居者様同士座ってお話できるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居時準備して頂いております	居室には、ベッド・エアコン・洗面台・収納が設置されている。入居前に本人と家族が居室を確認し、ご自宅より使い慣れた筆筒や炬燵、大切な位牌を持ち込まれている。環境の変化に考慮しベッドの位置は、ご自宅と同じになるよう配慮している。部屋でズボンのゴムの入れ換えや雑巾を縫うなどこれまでの生活が継続でき、居心地よく利用者のペースで過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入った入居者様がなれるまでトイレの張り紙(トイレ)を貼ったり工夫をしております		